

白布城だより

2025・春

栃木県立真岡高等学校定時制課程

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

☎0285-82-3413 ■FAX0285-82-2913

■第3学期始業式・校長年頭所感



1月8日（水）、多目的室にて第3学期始業式が行われました。荒井博文校長は冒頭で、「たった今、いいものを見せてもらった。一瞬にしてざわめきが消えて静かになった。言われたからするのでなく、自らが求めて前を向く姿に諸君の主体性が表れていた。」「新年は一年の目標を決める時期でもある。先生は年間読書20冊読破と子供の頃からやっていたスポーツの再開を目標に掲げたい。」「今日1月8日は何の日か知っているか？一か八かの賭け事の日である。長い人生には勝負をかけることもあるかもしれない。負けては悔しい。高校生活では色々な力を蓄えるため、今年一年で目標を定めてやってみることを勧めたい。」「一人一人が体調管理を心掛け、卒年次生は

新たな世界へ向かって、在校生は新しい年度へ向かって頑張ってもらいたい。」とエールを送られました。

■食事会・予餞会

2月3日（月）2～5校時、生徒会主催の予餞会が行われました。まずは給食室で、お楽しみの給食でスタート。在校生が先に入場し、卒年次生を拍手で出迎えました。4種から選んだドリンクで乾杯後、4種の具材の手巻き寿司を中心に盛り沢山のメニュー、どの生徒の顔も満足気で、会話をしみながらの会食となりました。

多目的ホールに場所を移しての予餞会第1部。荒井校長は開会の挨拶で、予餞会の「餞（はなむけ）とは馬の『鼻向け』の送別を表す故事からきている。今まで頑張ってきた卒業生に、生徒会が盛り沢山の企画を考えてくれた。卒業生・在校生とともに楽しい時間を過ごしてほしい。」と労いの言葉を掛けられました。

お待ちかねの「4（3）年間の思い出」のスライドショーが卒業ソングに乗って映し出されると、成長して大人の顔になっていく劇的な変化の過程に感嘆の声が上がりました。次に、卒年次生一人一人が壇上から在校生に向けてメッセージを投げ掛けました。マツノトシロ君（4年次）が「静岡からこの学校に転入以来、先生方のやさしさに支えられてのあっという間の2年間だった。社会人になってもここで学んだ教訓を生かして頑張りたい。」と率直な思いを発すると、会場のムードが一変しました。続く水上拓海君（4年次）も「先生方やクラスメートがいつもやさしく接し、話し掛けてくれた。この学校に来てよかった。」と言葉に詰まりながらも、思いの丈を披露しました。長谷希花さん（3年次）は「3年生の後半からクラスの仲が深まり、すごく楽しくなった。もっと早くから仲良くしたほうがいいと思う。」と後輩へアドバイスを送りました。中尾惺君（3年次）は「三修生の僕らに『あと2時間頑張てね』と言って帰宅する4年で卒業する友へ、『あと1年頑張てね』と言葉を送りたい。」と笑いを交えてのスピーチに、会場は笑顔に包まれました。



その後体育館に移動し、腰につけたタグを奪い合う「尻尾捕り」・10回の合計で競う大縄跳び・学年対抗ドッジボールで競い合い、絆を深め合ったタベとなりました。卒年次が総合優勝を果たし、面目躍如たる活躍でした。どの顔にも笑顔がこぼれ大盛況でした。卒年次チームの大縄跳びにも参加して、抜群の跳躍力を披露した須藤優教頭から「我々人間って、出会って過ごして別れていく。そういう人とのつながりの中で成長して、今日に至っている。自分の進路選択が正しかったのかと考えることがあっても、もう後戻りはできないのだから、自分の決断が正しかったと考えて今後も頑張るしかない。」と人生の道標となる講評をいただきました。

■環境教育講演会

2月7日（金）多目的ホールに、「もおかエコの会」の石渡饒一様、嘉村皓明様、山森輝夫様、福田政夫様の4名をお招きし、第1部では、「ごみ問題、プラスチックによる海洋汚染」「地球温暖化の現状と未来の予測」の2つの講話と「二酸化炭素の海水への溶解と酸性化」の実験を、時折クイズを出題しながら、ご講演いただきました。第2部では、生徒が4グループに分かれて、各テーブルを時間毎にローテーションしながら、数多くの実験を見せていただきました。間近で見える実演のすばらしさに、岡本歩夢君（2年次）は「すごいなあ！」と、ラケブラント・ブリジッテさん（2年次）は「初めて知りました！」と歓喜の声を上げていました。また多くの生徒が、「実験がわかりやすく、ためになった。楽しかった。」とアンケートに記入するなど、地球温暖化防止の取り組みは、一人ひとりが身近にできることだと気付けた絶好の機会となりました。

■進路教育講演会

2月21日(金)自習室に、宇都宮ビジネス電子専門学校顧問の羽石良久様をお招きして、ご講演をいただきました。正社員とアルバイトの収入・保険・年金面での有利・不利、企業が求める人物像、社会人になるためのマナー、人生の目標設定の仕方、やる気を起こすには等に加え、面接時の挨拶や所作の具体例を男女別に実演されたり、大谷翔平選手の曼陀羅チャートもご説明いただいたりと、あっという間の2時間でした。この講演を聞くと聞かないでは、この先大きく将来設計が違ってくると思えるほどの貴重なお話でした。

■同窓会入会式・卒業生表彰式



2月28日(金)、同窓会入会式が講堂で行われました。佐藤務同窓会長は、代表生徒に記念メダルを贈呈された後の挨拶の中で、「このメダルは5cmの真鍮製で、表面には至誠の碑が、裏面には校章がデザインされている。至誠の碑は東郷平八郎が揮毫したもので、大正2年(1913年)に在校生からの寄進により竣工された。校章の上部に「文化の火」をかざし、両側の柘の葉が天に向かって伸びる様は若人の躍動、中央に「真高」の二文字を浮き出し、下の白布のリボンは真高生のキズナを表す。先だって納めてもらった同窓会費1万円は、3千円が校庭の人工芝の改修費、7千円は同窓会運営費として使用している。その中の千五百円がこのメダルだ。日々机の上に置いて、歴史と伝統に思いを馳せ、これからの人生の羅針盤にしてほしい。」と激励の言葉を送られました。

次に記念館講堂に場所を移して、表彰式が行われました。荒井博文校長は、学校長賞を授与された千葉陽翔君(3年次)に対し、「入学以来、色々な困難を乗り越えて、学業賞・3年間皆勤賞と、多くの素晴らしい活躍してくれた。これは一人で成しえたのではなく、周りの仲間・先生方・家族に支えられて頑張ってきた成果だ。これを誇りに大きく羽ばたいてほしい。」と称賛されました。

1 学校長賞	千葉陽翔(3年次)
2 精励賞 3年間皆勤	千葉陽翔(3年次)
3 学業賞 学業・人物ともに優秀な者	千葉陽翔、長谷希花(3年次)
4 特別活動賞	
(1) ホームルーム活動	
ア H.R.の中心となって顕著な功績のあった者	マツノトシロ(4年次)
イ H.R.の一員として他の模範となる活動をした者	千葉陽翔(3年次)
ウ 清掃美化に努めほかの模範となる活動をした者	水上拓海(4年次)
(2) 生徒会活動	
ア 生徒会役員として精励し特に功労顕著な者	東斗和、小笠原颯汰(3年次)
イ 専門委員会で活動し特に功労顕著な者	マツノトシロ(4年次) 千葉陽翔(3年次)
(3) 学校行事等	
漢字テスト優良賞	塚田心美、長谷希花、小笠原颯汰、柴田伴香(3年次)
5 他団体からの表彰	
全国定通教育振興会優秀生徒	千葉陽翔、小笠原颯汰(3年次)
県定通教育振興会優秀生徒	塚田心美、長谷希花(3年次)

■卒業式



3月3日(月)、卒業式が講堂に於いて、佐藤務同窓会長、鈴木定男定時制後援会長のご臨席を賜り、凜とした静寂の中、厳かに挙行されました。

荒井博文校長は、「コロナ禍の感染予防により様々な制約があり、思い描いた高校生活とかけ離れた日常に、忍耐と葛藤を強いられたことであろう。その逆境を前向きに受け止め、平凡な日常こそかけがえのないものだ」と再認識する機会に換え、立派に高校生活を送ってくれた。」「逆境からの回復力・復元力『レジリエンス』は、地球環境の面から見れば、人類が生存できる安全な領域と限界点を定義する概念、地球の限界の意である『プラネタリー・バウンダリー』において、その9つのプロセスのうち気候変動・生物多様性の損失・生物地球化学的循環等が2009年時点で限界を超えたとも言われている。現在の生活様式や経済活動を継続することばかりを追い求めることなく、SDGs達成を念頭に入れた『レジリエンス』が鍵となってくる。」「諸君は多様化する世界で、異なる意見を持つ人とも、交渉のテーブルに着くことになる。長期的な視点に立ち、コミュニケーションやリーダーシップに磨きをかけ、今後の人生で道に迷ったときには校訓『至誠』の精神と『レジリエンス』を持ってチャレンジし続け、それぞれの世界で活躍することを祈念する。」と期待を込めたメッセージを送られました。

佐藤同窓会長は、「208名の同窓会入会を歓迎したい。1900年の創立以来27,082名の卒業生を送り出してきた。今後も本校で培った『至誠』の心を胸に刻み、グローバルな視野をもってほしい。弘法大師作と伝わる『実語教』に『山高きゆえに貴からず、樹あるをもって貴しとなす。(山はただ高いだけでは貴いとは言えず、そこに木が生い茂っているからこそ貴い。)」』と言葉を掛けられ、卒業生の門出を祝われました。

定時制卒業生代表答辞で小笠原颯汰君(3年次)は「中学時代、何をやっても無気力だった私は、立志式の作文を読み返しても投げやりな当時の気持ちが見て取れる。しかし本校での3年間は、自信ある自分に変わる場所だった。国語の授業で習った中島敦の『山月記』に感銘を受け、主人公が己の弱さに直面して葛藤する様子を、自分自身に投影させ、答えを見つけ出そうとしながらの3年間だった。」と披露し、成長した今の自分に胸を張っていました。

退場時、マツノトシロ君(4年次)が凜々しく号令をかけると、多くの方々の暖かな拍手に見送られながらの退場となりました。入学式当時のどこか頼りない表情は消え、歩み出る姿が自信に満ち溢れ、頼もしささえ感じられました。



■企業ガイダンス

3月14日（金）多目的ホールに、神戸製鋼真岡製造所の橋本拓也様をお招きして、就職活動ガイダンスのお話をいただきました。「直近2024年3月卒の求人倍率は全体で3.98倍であり、これは1人の高校生を4社が取り合っている状況である。また、バブル期を超えた過去最高値であり、学生優位の売り手市場である。」とのお話でした。その後、就職6年目の4名の社員の方によるパネルディスカッションが行われました。比較的年齢も近い方々から、具体的な仕事の内容や余暇の過ごし方等を聞く機会を得られ、生徒からの質問も活発に出て、就職への意識が高まった様子が伺えました。本年度も2名の生徒が採用内定を受けています。

■修業式・在校生表彰

3月24日（金）記念館講堂で在校生表彰と修業式が行われました。

- 1 学業賞

学業・人物ともに優秀な者

篠崎遼（3年次）山口翔、日下田風人（2年次）
宮田珠己、藤村陽和、薮崎陽登（1年次）
- 2 特別活動賞

（1）ホームルーム活動

H.R.の一員として他の模範となる活動をした者

清掃美化に努め他の模範となる活動をした者

（2）生徒会活動

生徒会役員として精励し特に功労顕著な者

専門委員会で活動し特に功労顕著な者

（3）学校行事等

漢字テスト優良賞

総合的な探求の時間 課題研究優良賞

高井魅琴（1年次）

日下陽貴、宮田珠己、八木愛吏（1年次）

山口翔、渡邊龍斗、田迎菜摘、日下田風人、
ラブラット・ブリッジ（2年次）、パリス・ローズ（1年次）

篠崎遼、榎山竜ノ介（3年次）、岡本歩夢（2年次）

篠崎遼（3年次）山口翔（2年次）

落合隆斗、パリス・ローズ、薮崎陽登（1年次）

神谷柊羽（2年次）

榎山竜ノ介（3年次）

黒川愛織、横山陽斗（2年次）

篠崎遼（3年次）山口翔、肥高準也（2年次）

日下陽貴、菅谷翔希、橋本潤弥、プリティ・ワイルド、
宮田珠己（1年次）
- 3 部活動賞

県大会柔道個人優勝
- 4 精励賞

1年間皆勤

1年間精勤

◆進路指導部より（R6年度進路内定状況）

- 4年次卒業生（就職3名）

マツノトシロ 神戸製鋼所、水上拓海 茨城食品ガーリック工業、岩崎タ希 Genki Global Dining Concepts（元気寿司）
- 3年次卒業生（就職2名・進学7名）

小笠原颯汰 神戸製鋼所、柴田伴香 アムテック

中尾惺 玉川大学工学部、栗田蒼生 栃木県衛生福祉大学校、東斗和 晃陽看護栄養専門学校

千葉陽翔、長谷希花、塚田心美、見目愛里沙 TBC 学院

◇図書だより冬春号発刊

先月末に図書委員会誌「図書だより冬春号」が配布されました。委員会顧問の小椋康裕先生による「読書の重要性」と題した文を初め、職員全員の「お勧めの一冊」も掲載されています。ぜひご家庭でもご覧になってください。

☆白布の風 ～あとがきに代えて～

令和6年度中、保護者等様、定時制後援会・自治会の皆様には大変お世話になりました。

さて、本校で3年間校長としてご勤務された荒井博文先生ですが、役職定年となり退任されることとなりました。先生はご存じの通り温厚な人柄で、講話の際に満面の笑顔で話し始められるや否や、聞いている生徒の顔もそれにつられて自然と笑顔になっている様をよく目にしました。また賞状伝達の際、生徒一人一人に対して労いの言葉を掛けたり、「以下同文」にせず全文を読み上げる等、頑張りを大切にされてきました。今後は遠方から本校を見守っていただくとともに、ご健康に留意され益々ご活躍ください。

おわりに、真岡高校定時制に関わる全ての方々が、恙なく新年度を迎えられますよう祈念しております。（記録・渉外部）



校歌

高橋しげる作詞
私田竜太郎作曲

一 朝日にさす白布が丘に
健児我等は今日もまた
古き歴史に新しき
光添えなん

誓は堅し至誠の碑
ほこりは永劫若人我等

二 行手送けき清流鬼怒の
健児我等にささやくは
日夜不断の旅行かほ
道はひらけん

天地は広し満ちる幸
秋善は永劫若人我等

三 夕陽てりそう筑波の峰は
健児我等が明日もまた
たかき理想のしるしとて
仰ぐにかねぞ

きつめき早し星の影
希望は永劫若人我等

